

北地域後援会は我孫子1～4・久寺家・台田・つくし野・並木・根戸・布施のエリア



笠間稲荷の菊

しらかば北

発行責任者
井上文夫

星野市政にももの申す (2)

11月に引き続き続いて星野市政にももの申す(その2)を掲載します。

コロナ対策費の使途を明らかにして

コロナ対策費として、我孫子市にも多額の手算が国から支給されたと聞いている。

ところがその使途が未だ明らかにされていない。市内の小中学校全生徒(約8000人)にタブレットを与えるために使われているとか、公用車の買い換えにも使われたのではという声も聞いた。直接的なコロナ対策費としてどのように有効活用されたのか、明らかにして欲しい。

(久寺家 男)

歩道の段差解消を

交差点の踏み出す足元に段差が多い。側溝のフタの上が歩道になっている所もあり、ガタガタが続き足元がアブナイ箇所が多い。

歩行者、車椅子、バギー、自転車、気持ちよく安全に通行したいものだ。

通学路をはじめ段差総点検を願う。

(我孫子 女)

つくし野の「サービスセンター」開所日を元通りにして欲しい

つくし野にある市の「サービスセンター」の開所日は、コロナが発生した時に「月水金」の週3回になった。コロナが落ち着いたが週3回に戻すということだったが週3回のままである。市はひよっとしたら元に戻さないつもりではと疑っている。そうであればサービスの低下である。従来通り、月曜から金曜まで通して開所日にしてほしい。

(つくし野 女)

学校の統廃合はどうなる?

市は児童数の減少を口実に布佐中学校区の小学校統廃合を計画している。児童生徒数の減少は、質の高い教育のチャンスでもある。

統廃合ではなく特色ある学校づくりをめざすべき。安易な統廃合には反対である。また、市内全域の学校統廃合を順次進めていく方針であるとも聞いている。市は先ず市民の声に耳を傾けてほしい。

(つくし野 女)

待望のホームエレベーター まず 8番線が完成



完成したエレベーター前の野村貞夫議員

永年、市民の要望であった我孫子駅のホームエレベーターが、12月15日に8番線ホームに完成しました。

野村貞夫議員が市民要求に応じて、駅ホームエレベーターを公約として2015年初当選して以来、議会でも要望し、署名を集めました。2018年1月、市民と共に国土交通省に要請書をもって請願を行い、実現の見通しを得ました。以来8年やっと完成します。

(我孫子 女)

「公園坂通り」を早く整備してほしい

我孫子駅から手賀沼に通じる「公園坂通り」は、我孫子市のシンボルロードです。十分な歩道を確保し、街路樹やお花などを植えて誰もが歩いて見たくなる魅力ある道にしてほしいです。

(訂正)

11月の星野市政にももの申すのなかで「子どもの医療費無償化」という声を取り上げました。その中で「我孫子市は15歳(中学3年)までは無償化」と記述しましたが「我孫子市は18歳(高校3年)までは無償化になっているが所得制限がある。」でした。「所得制限をなくしてほしい」に、お詫びして訂正しました。

花火

日本の軍事費(防衛費)が世界第3位になる！ エッと驚くが、岸田内閣がこの軍拡予算計画を進めている。現在でも

世界で9番目に多い軍事費、これ自体が許せない、認められない。ところがこれから5年間、毎年1兆円ずつ軍事費を増やしていくって27年度には10.11兆円に増大させるというのである。今年度の軍事費は当初予算では5.4兆円、GDP(国内総生産)比率1.1%なのだが、この軍事費をGDPの2%にまで急拡大する。つまりこれから5年間で43兆円という驚くべき金額を軍事費に投入する。そうすると日本の軍事費はアメリカと中国に次ぐ世界第3位の軍事費大国となるのである。陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない(第9条)とした憲法を持つ国が、世界第3位の軍事予算を組むことになる。戦争を放棄した憲法を持つ日本がこのような巨額の軍事予算を組む軍事大国となっていくのか、正気なのか? おかしくないか! 心底そんな思いがする。5年間で43兆円もの軍事費、この巨費を教育や医療・福祉に転換させれば、ずっと安全・安心な国造りが出来ると思うのだが、今の国会の勢力図を考えればそれは「絵空事」……。くやしいが、許すことは出来ないが、この大軍拡予算が国会で認められようとしている。

(竹)

12月で88号 これまでの紙面を振り返って 見ました

編集部

この「しらかば北」は、2015年8月に我孫子北地域に誕生して7年を過ぎ、12月で88号を迎えました。

地域の様々な情報で読者の皆さんに親しまれるニュースを作ると同時に暮らしに関わる市政・国政についても載せてきました。

後援会の皆さんからの要望も何度かお聞きし、野村貞夫市議会議員の活動で市に訴え解決した問題も多々ありました。

★ 最初の連載記事は「味の散歩道」で、美味しい店、個人商店で頑張っている店を取材し応援しました。

5年間にわたり62店舗を尋ねました。殆どの店が家族経営で、後継者の悩みを話されるところもありました。

★ 「味の散歩道」に替わって翌21年から「地元で頑張ってます」を特集して、1年間、12店の頑張っている個人商店を紹介しま



しらかば樹林

した。大型店舗が増えて、個人商店は苦しい経営と言われていますが、地元の信頼を大切に、地域に密着したお店でした。

★ 主要記事では12回（1年間）連載したのは、「事件から見た日本社会の問題点」で我孫子在住の林治弁護士に寄稿をお願いしました。

★ 不当解雇・生活保護・ひきこもり支援・コロナ生活支援等々の問題について法律相談の立場から書いていただきました。

★ 我孫子北地域の「むかしと今を訪ねる」も10回にわたり連載しました。約600年前から現在も残る我孫子周辺の遺跡や村の有り様など興味ある読み物でした。

★ 今、「この人に聞く」を連載しています。豊富な人生経験を話していただいています。

★ 最近の記事で多いのはコロナ拡大、ウクライナ侵略などの他、安倍の国葬問題も度々大きく紙面を占めました。

★ 来年は地方選挙の年です。この新聞は、共産党の後援会のニュー

スです。選挙においては、共産党を支援し躍進のため活動してまいります。引き続き読者の皆さんのご支援をよろしくお願い申し上げます。

心に残った 山・旅

ベルギー
グランブラス広場



30歳頃から年に1、2回日本脱出夫婦でリフレッシュを求めて海外旅行に。一番多行ったのはベルギー。ヨーロッパは鉄道で他国に行けるので、フランス、オランダ、イギリス、オーストリアなどに行ったりは必ずベルギーによる。ビール、ムール貝、ホワイトアスパラ、小エビなどを求めて、またショッピングや風景に酔う。

首都ブリュッセルの中心部に世界遺産で、詩人のビクトルユーゴーが「世界で最も美しい広場」と評した「グランブラス」がある。市庁舎、博物館、ギルドハウスの歴史的建造物に囲まれている。私の目的の場所で、世界中の観光客が石畳に座り写真を撮り常にぎやかな場所だ。

12月15日グランレジデンス（我孫子2丁目）の交差点にスクランブルの白線表示ができました。



この人に聞く 加藤英一さん (3)

21世紀に入っても、核保有5大国は核軍縮に誠実に対応せず、さらにイスラエル、インド、パキスタン、北朝鮮などが核保有に踏み切った。これに対して大量殺りく兵器の国際人道法による禁止を掲げる国々が国連総会の場で活動を強化し、それに呼応して原水禁運動も活性化した。加藤さんがかつて属していた組合も退職者にも呼び掛けて平和行進初日の参加を復活させ、また加藤さんは常磐線沿線の退職者に呼び掛けて地元でも参加したという。

組合は困難な中でも原水禁世界大会には代表を送ってきたが、加藤さんは誘われて12年から18年まで毎年大会に参加された。15年には、日本原水協の代表の一人として、ニューヨークの国連本部で開かれる核不拡散条約再検討会議に向けて、核廃絶の国際署名を届けるツアーにも参加した。そのために自身で集めた署名は600を超えたという。

18年に数人の友人と中部ヴェトナム旅行をした時、加藤さんはヴェトナム語版の国際署名用紙60人分を携行した。ホテルのフロント、レストランのウェイトレス、さらには交代中の交番でお巡りさんなどにもお願いしたが、会話ができないにもかかわらず、用紙を見せて手まねで署名を訴えようと、断る人はなかったという。中には店番の女性が奥の作業場にいる人の署名を集めてくれたこともあり、倍の用紙を準備するべきだったと言われた。

核保有国は、世界に広がる核廃絶への要求に抗して、使える小型核兵器を軸に開発を進める一方、ウクライナ侵略でロシアのプーチン大統領は核兵器の使用を示唆している。また国内でも維新の会は、NATO並の核共有を主張した。

それは、アメリカの核兵器を自衛隊の空軍基地に貯蔵し、有事には自衛隊機がそれを装備して敵国を核攻撃するという恐るべき暴挙である。

確かにヒロシマ・ナガサキそして戦争体験を有する人は少なくなっているが、再度掘り起こして戦争と核兵器を地上からなくすことなしに人類の未来はありえないと強調された。



（加藤さんの項 おわり）